

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成28年4月14日 (2016.4.14)

【公開番号】特開2016-28645(P2016-28645A)
 【公開日】平成28年3月3日 (2016.3.3)
 【年通号数】公開・登録公報2016-013
 【出願番号】特願2014-151733(P2014-151733)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月13日 (2016.1.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行うことが可能な遊技機であって、
遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
前記遊技制御手段から送信されるコマンドにもとづいて演出を制御する演出制御手段と
を備え、
前記遊技制御手段は、
可変表示時間を示す可変表示時間コマンドと、所定コマンドと、可変表示の終了に伴い
 特定コマンドを送信するコマンド送信手段と、
可変表示の回数が所定回数になるまで短い時間の可変表示が実行されやすい有利状態に
制御する状態制御手段とを含み、
前記演出制御手段は、
前記可変表示時間コマンドにもとづいて可変表示を実行する可変表示実行手段と、
前記有利状態において、可変表示の回数が前記所定回数になるまでの回数を更新する更
新手段と、
前記更新手段による更新結果に対応する報知を行う報知手段とを含み、
前記可変表示実行手段は、
前記有利状態に制御されていないときに、前記可変表示時間コマンドが正常に受信され
た場合、前記所定コマンドが正常に受信されなくても、可変表示を実行する一方、
前記有利状態に制御されているときに、前記可変表示時間コマンドが正常に受信された
場合、前記所定コマンドが正常に受信されたことを条件に、可変表示を実行し、
前記更新手段は、前記有利状態に制御されているときに、前記特定コマンドが正常に受
信された場合、前記所定コマンドが正常に受信されなくても、更新する
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 1 】

本発明は、可変表示を行うことが可能な遊技機に関する。

【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 0 9

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 0 9 】

(手段 1) 本発明による遊技機は、可変表示を行うことが可能な遊技機であって、遊技の進行を制御する遊技制御手段 (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0) と、遊技制御手段から送信されるコマンドにもとづいて演出を制御する演出制御手段 (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0) とを備え、遊技制御手段は、可変表示時間を示す可変表示時間コマンド (例えば、変動パターンコマンド) と、所定コマンド (例えば、背景指定コマンド、表示結果指定コマンド) と、可変表示の終了に伴い所定コマンド (例えば、図柄確定指定コマンド、客待ちデモ指定コマンド、大当り開始指定コマンド、変動パターンコマンド) を送信するコマンド送信手段 (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 5 1 A , S 6 0 , S 1 0 2 , S 1 0 7 ~ S 1 0 9 , S 1 3 3 を実行する部分) と、可変表示の回数が所定回数 (例えば、5 0 回) になるまで短い時間の可変表示が実行されやすい有利状態 (例えば、確変状態) に制御する状態制御手段 (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 1 4 4 , S 1 6 7 , S 1 6 8 を実行する部分) とを含み、演出制御手段は、可変表示時間コマンドにもとづいて可変表示を実行する可変表示実行手段 (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 における S 8 0 1 ~ S 8 0 3 を実行する部分) と、有利状態において、可変表示の回数が所定回数になるまでの回数 (例えば、残余確変回数 K) を更新する更新手段 (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 におけるステップ S 3 8 0 1 を実行する部分) と、更新手段による更新結果に対応する報知を行う報知手段 (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 におけるステップ S 3 8 0 2 を実行する部分) とを含み、可変表示実行手段は、有利状態に制御されていないときに、可変表示時間コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されなくても、可変表示を実行する (例えば、ステップ S 2 6 0 1 の N である場合、表示結果指定コマンドおよび背景指定コマンドを受信したか否かにかかわらずステップ S 8 0 0 1 ~ S 8 0 0 8 を実行する) 一方、有利状態に制御されているときに、可変表示時間コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されたことを条件に、可変表示を実行し (例えば、ステップ S 2 6 0 1 の Y である場合、表示結果指定コマンドおよび背景指定コマンドを受信したことを条件に (ステップ S 2 6 0 2 の Y , S 2 6 0 4 の Y) ステップ S 8 0 0 1 ~ S 8 0 0 8 を実行する) 、更新手段は、有利状態に制御されているときに、特定コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されなくても、更新する (例えば、実施の形態 2 において、ステップ S 2 4 0 1 の Y またはステップ S 2 4 0 5 の Y である場合、ステップ S 3 8 0 2 を実行する) ことを特徴とする。そのような構成によれば、状況に応じた処理を実現することができる。